



横 依 遺 跡 群 II

1 9 9 2

前橋市教育委員会

荒砥工業団地の造成に先立ち行われている横俵遺跡群の発掘調査は平成3年度で第4年次をむかえました。

発掘調査が進むにつながい、大道遺跡・上横俵遺跡・熊の穴遺跡などから数多くの住居跡や古墳が発見されています。

中でも平成2年度に調査された上横俵遺跡と

熊の穴遺跡からは「上毛古墳総覧」（昭和10年に県下といっせいに行われた古墳の調査をまとめた本）にのついていない古墳が数多く発見され大変貴重な資料を得ることができました。

この写真集は平成2年度に行われた上横俵遺跡並びに熊の穴遺跡での調査の成果をまとめたものです。

熊の穴遺跡

旧石器時代の石器包含層

縄文時代の土器・石器包含層

縄文時代の住居跡

縄文時代の墓とし穴多数

古墳時代の住居跡多数（前期）

古墳時代の小円墳多数（後期～末期）

平安時代の住居跡

炭焼き用の窯（奈良～平安時代）

上横俵遺跡

縄文時代の住居跡

縄文時代の土器・石器包含層

古墳時代の小円墳多数（前期～後期）

平安時代の地震による地割れ

神沢川古昔流れた跡

大道遺跡（昭和63～平成元年度調査）

縄文時代の住居跡多数

縄文時代の配石墓（石組みのお墓）多数

古墳時代の住居跡多数（前期・後期）

奈良・平安時代の住居跡

中世の溝跡

きゅう せつ き

旧石器時代の調査(今から12000年以上前)

きよ せき きよ せき
巨石と旧石器

前の穴遺跡の丘の頂上から赤城山方面を写したもので

この丘の頂上には以前から大きな石があつたことが知られています。調査の結果、この巨石の周りには今から2万年以上前の旧石器時代の遺跡があることが分かりました。

市内で旧石器時代の遺跡が確認された例は数えるほどしかなく、大変貴重な発見となりました。

いわ かげ

岩陰の遺跡

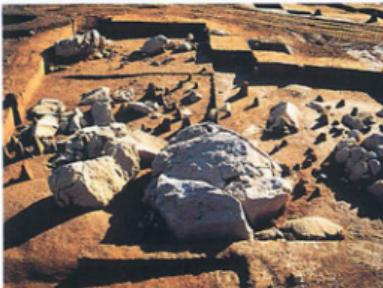
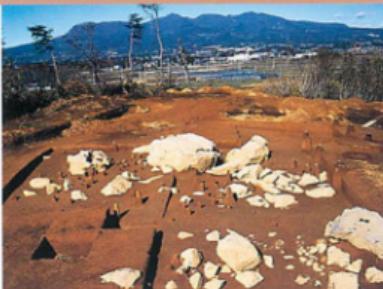
丘の上から南に向けて旧石器時代の遺跡を写したもので

調査区の中に小さい土の柱のようなものが残されていますが、その場所から旧石器が発見されました。旧石器のほとんどは大石を背にした南側で見つかっており、当時の人々はすでに日当たり・風向きなどの自然条件を知りつくして住まいを選んでいたことが分かります。

発見された石器

旧石器は全部で 128点発見されました。ほとんどが石器を作るときのカケラでしたが、ナイフ形石器(動物の解体等に使用)が10点、キリ形石器(毛皮などに穴をあける道具)が1点の外、使用されたと思われる石器も8点見つかりました。

発見された所の土を調べた結果、古いものでは、今から約2万1千年以上も前のものであることが分かりました。



じょう もん

縄文時代の調査(今から12000年~2300年前)

じょう もん
縄文時代の土器の出土

旧石器が発見された丘の東から南にかけての斜面からは、数え切れないほど多くの縄文時代の土器片や石器・石器片が見つかりました。

けれども、住居の跡は2軒しか発見されず、なぜ大量の土器や石器が丘の斜面から見つかるのか興味深い発見となりました。

(土器や石器が発見される地層のことを遺物凹凸層と言います)



狩りのための落とし穴

動物を落とすために掘られた縄文時代の落とし穴を上から写したもので、長径が約3m、短径が約 1.8m の小判形をしており、深さは約 1.4m ありました。底にある小さな三つの穴は、逆木(落とし穴の底に埋め込まれた先端が折れた杭のような木で、動物が落ちたときに傷を負わせたり、穴から外へ出ようと助走をするのを防いだりするためのもの)を埋め込んだ跡のです。逆木(さかもぎ)

熊の穴遺跡からは20基以上発見されています。(熊の穴遺跡)

縄文時代の土器と石器

神沢川の西にある大道遺跡では、縄文時代の大規模なムラガ発見されていますが、そのムラガは時期の異なるムラガ上横塗遺跡や熊の穴遺跡で見つかりました。手前の石器三点は、磨製石斧と呼ばれるもので、建築用の道具と考えられています。中央の大きな打製石斧は住居や落とし穴などを掘るために使われていたものと思われます。

(上横塗遺跡)

古墳時代の調査(今から1700年~1300年前)

熊の穴遺跡の古墳群

丘の頂上部には旧石器時代の遺跡、中腹部には縄文時代の遺跡、ふもとには古墳時代の古墳群が発見されました。古墳は、大小合わせて13基調査されました。



熊の穴遺跡10号墳

墳丘の直径が約11mの小さな円墳で天井石や石室内の副葬品はすでに取り去られており、ありませんでした。赤城山の自然石をほとんどそのまま利用して石室を作っています。



熊の穴遺跡4号墳

古墳群が作られたころには、すでにこの地域にも長さを測る尺度(ものさし)が入っていたらしく、墳丘や石室の大さに一定の規格が見られます。



上横俵遺跡の古墳群

6基の古墳が調査されているのが分かるでしょうか。これから調査される古墳が、大きな円墳の上と青い屋根の上に写っています。



上横俵遺跡4号墳と8号墳

4号墳は直径が約26mの円墳でした。大きな天井石が石室の中に落ちていたため、ほうむられた人とともに納められた副葬品はそのままの状態で見つかりました。



上横俵遺跡13号墳

古墳群の中で最も大きく、墳丘の直径は約30mありました。石室の前はコの字形の石垣状にきれいに作られており、ほうむられた人をまつるための広場になっていました。

小さな古墳ができるまで(調査の逆の順で想像復原してみました)

① なだらかな丘の南から東斜面を漁ぶ。

30cmを一尺としたものさして墳丘や石室の大きさを設計する。(35cmを1尺とするはかり方もある) 南が正面になるように馬のひづめ形に穴を掘る。



② 中央部を少し高くして穴の底をつきかためる。

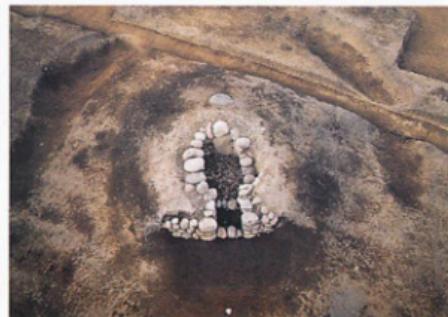
設計のとおりに第1石を並べる。一番奥には大きな石を置く。
石室への通り道や石室の床に小石を敷きつめる。



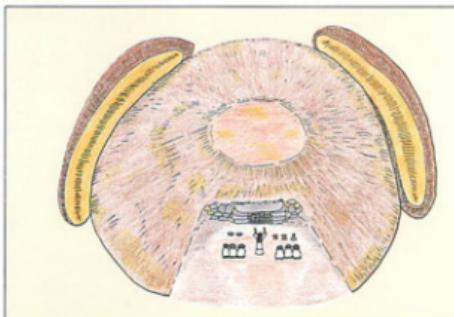
③ 安定するように石と石の間に小石を入れながら石室の内側がそろうように第2石、第3石と積み上げる。
この作業と同時に裏込め(石室の外側がくずれないよう土や石を入れること)をする。



④ 天井石を乗せるために一番上の石の高さをそろえる。
石室入り口部分の石をきれいに積み上げる。
この古墳では赤堀山の石と利根川でひろえる榛名火山
の軽石(だえん形)の両方の石材を使っています。



⑤ 天井石を乗せる。(この古墳の天井石は取り去られて
いてありませんでした)
最初に掘った穴の土を石室にかぶせる。
設計どおりに墳丘の回りに土を運ぶ。



⑥ 墳の土を内側に盛り上げ墳丘をきれいに仕上げる。
前庭(死者をまつるための石室前の広場)をきれいに
仕上げる。
死者と副葬品を石室に入れ、入口部を石でふさぐ。

埴輪と土器

はにわ 人物の埴輪

上横塙古墳群5号墳で発見されました。首から下の部分は残念ながらありませんでしたが、頭部は良く残っていて髪の毛の形や表情が良く分かります。左手の形や全体の様子から剣をもっている男子の像と思われます。



馬の埴輪

同じく5号墳から発見されました。鼻から尾までの長さは約80cmあります。背中には鞍、口の部分には手綱やくつわ（馬の口につけ手綱をつけるための道具）が表現されています。また尾部には鈴がつけられています。



円筒埴輪

人物埴輪や馬の埴輪は姿を形どつて作られているので形像埴輪と呼ばれています。それに対し墳丘の周囲に並べられた筒の形をした埴輪は円筒埴輪と呼ばれています。

現在の世界と死者の住む世界を区別するための境界として並べられたものと考えられています。



古墳に置かれた土器

上横塙古墳群の中で一番古い古墳（周満塙=回りに堀を掘るが内側へは土を盛り上げない形の墓）と思われる8号墳から発見された土器類（素焼きの土器）です。後列の左右の土器の底には焼き上げる前に開けられた丸い穴があります。このような土器が発見される古墳は古い時期の古墳と考えられています。



石室の中に置かれた土器(1)

上横塙遺跡の古墳から発見された須恵器（ろくこうで作られ蒸煮して干度以上の温度で焼かれた灰色の硬い土器）です。須恵器の焼き方は日本独特のものではなく、朝鮮からの渡来人によってもたらされたもので、土師器しか知らないかつた人々にとって貴重な品物であつたらしく、古墳の副葬品として広く使われました。



石室の中に置かれた土器(2)

2の横瓶（水筒）以外はすべて上横塙遺跡4号墳の石室内から発見された副葬品の須恵器です。1は高环（そなえ物を乗せる土器）1. 3. 6は提瓶（けいだい用の水筒）4は平瓶（水差し）5は長颈瓶（水差し）と言われるものです。死後の世界でも水や食料に困らないようにと願って置かれたのか知りません。

ふく そう ひん

副葬品(ほうむられた人と一緒に置かれた品々)

金環(耳環)

上横倣遺跡4号墳から3対(6個)=写真の上段)11号墳から1対(2個)13号墳から2対(4個)発見されました。1人に1対と考えるとほうむられた人の数が想像できます。4号墳は盜掘(墓どろぼう)にあわなかつたので時間的な差はありますが、3人はほうむられたものと思われます。



切子玉とビーズ玉

切子玉とは普通六角すいを二つ合わせて両方の先を切り、穴を開けた主に水晶を材料とした玉のことで、首飾りとして利用されました。ガラスがすでにこの地域まで伝わっていたことや、それなりに穴を開ける難しい技術ももっていたことが分かります。ビーズ玉と組ませて想像復原してみました。(上横倣4号墳)



太刀(直刀)

上横倣遺跡の古墳群からは4号墳で2振(写真上の2本)11号墳で1振(写真一番下)の太刀(鉄製の真っすぐな刀)が見つかりました。一番長いもので刃先が約90cm、ほかのものは刃先が約70cmほどありました。長い太刀にはつばがついており、X線撮影の結果銀で飾りのようがつけられていることが分かりました。



勾玉とガラス玉

上横倣遺跡の4号墳からは金環・切子玉・ビーズ玉などの副葬品がたくさん見つかっています。めのうで作られた6個の勾玉や30個のガラス玉も同じく4号墳から見つかつたものです。勾玉は日本にしかない形の玉で、その歴史は古く、縄文時代にまでさかのぼります。ガラス玉と組ませて想像復原してみました。



ビーズ玉

上横倣遺跡の13号墳から発見されました。天井石はすでに取り去られ石室内も盗掘にあっていて小さくて取り残されたビーズ玉とさびた大さんの鉄のやりじり・金環2対が残されていただけで副葬品はほとんどありませんでした。コバルトブルーのガラスで作られており、首飾りとして使われていたものと思われます。



副葬品の発見

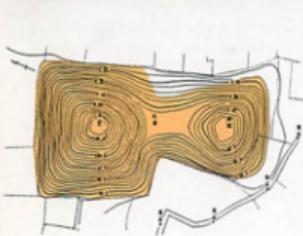
4号墳の石室内部東側の様子で、太刀とその先に馬具(くつわ)その右に須恵器の高杯またその右に提瓶(水筒)太刀の右にも提瓶があるのが分かります。右上に写っている大きな石は天井石で、この石が落ちていたために盗掘に会わずにすんだものと思われます。この石の北側から玉類・金環が見つかりました。



古墳の形いろいろ

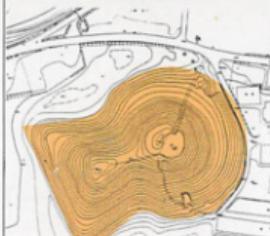
(この図からは大きさの比較はできません)

前方後方墳
ぜんぽうこうほうふん



八幡山古墳

前方後円墳
ぜんぽうこうえんふん



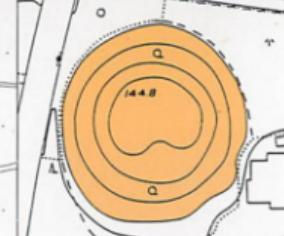
前二子古墳

帆立貝式古墳
ほたてがいしきこふん



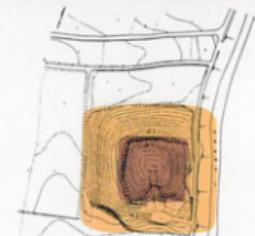
亀塚山古墳

円墳
えんふん

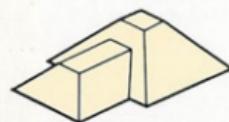


新田塚古墳

方墳
ほうふん

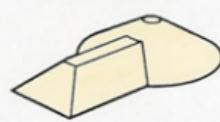


愛宕山古墳

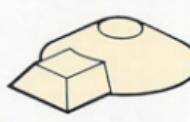


四角と四角を組み合わせた形の古墳。
市内にある古墳の中でも古墳が作られ始めたころの古い古墳と考えられます。

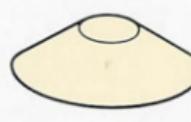
八幡山古墳（朝倉町）⑩



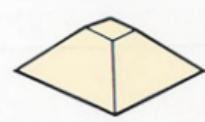
四角と円形を組み合わせた形の古墳。その地域における豪族の長の墓とする説が強い古墳です。
天川二子山古墳（文京町）⑩
総社二子山古墳（総社町）⑩
前二子古墳（西大室町）⑩
中二子古墳（西大室町）⑩
後二子古墳（西大室町）⑩



円形の墳丘に小さな四角形の張り出しをつけた形の古墳。
亀塚山古墳（山王町）⑩
内堀M-1号墳（西大室町）



大きさは数十mのものから数mのものまでとさまざまです。市内に750基以上あったとされる古墳のほとんどは円墳でした。
新田塚古墳（上泉町）⑩
塙原塚古墳（田口町）⑩
経塚古墳（東善田町）⑩



平面が四角形でピラミッドのような形をしている古墳です。古墳時代の後期から終末期につくられました。
宝塔山古墳（総社町）⑩
蛇穴山古墳（総社町）⑩
愛宕山古墳（総社町）

⑩ 国指定史跡 ⑪ 市指定史跡

横俵遺跡群II 1992

前橋市教育委員会

1992.12.25